

# デコボコ道

私が以前、理事長を務めていた施設は、10年ほど前まで、舗装されていないデコボコ道を通って行かなければならない山の奥にありました。

雨が降った翌日に視察に来られた方からは、「靴が汚れる」「歩きにくい」などと文句をよく言われたものです。でも、そこを通る子どもたちは、水たまりを「キャッ、キャッ」と喜び、楽しそうに歩いていました。

「同じデコボコ道なのに、何が違うのだろう？」

そう疑問に思い始めてから、私は、その違いについて気付いたことを書き止め、それを一覧にしました。それが、この「時間に追われない国」「時間に追われる国」の一覧です。

時間に追われない国	時間に追われる国
家庭、地域、子どもや高齢者のいる暮らしの場	学校、病院、企業、軍隊など働く人のいる仕事の間
○いろいろな人々が一緒に暮らす	○同質の人たちを集める
○遠回りもよし ・プロセスを楽しむ	○最短距離、最高の効率でいく ・結果を求められる
○存在そのものが大切	○能力に価値がある
○人の数ほど答えがある（山の麓）	○正解がある（山の頂上）
○形容詞の世界だから、よくもめる	○数値の世界は追われ続ける
○いいところを取り入れると、 悪いところは付いてくるもの	○悪いところを切り捨てると、 いい所になると思っている
○いつも未完成	○完成・解決をめざす

## 時間に追われる国へ行くための教育

私たちは、小さい頃は、「時間に追われない国」の住人でした。しかし、学校に通い、せっせ、せっせと、「時間に追われる国」の価値観を身に付けます。

今の日本は、家庭や地域までもが「時間に追われる国」であり、私たち大人たちは、生まれてきてくれただけでも素晴らしい存在の子どもたちを、その価値観でばかり評価してはいないでしょうか。

戦後、日本が経済成長をする上で、「時間に追われる国」の価値観は必要でした。私は決して、「時間に追われる国」の価値観を否定しているのではなく、今の時代に

も、その価値観が必要な分野もあると思っています。

しかし、暮らしの場である家庭や地域までが、「時間に追われる国」の価値観になってしまったことが、現在のひずみ（地域・家庭の崩壊、生きがい感・居場所の喪失、精神障がい、ひきこもり、登校拒否、家庭内暴力、自殺、親殺し、子殺し、虐待、無縁死、孤独死…）を生み出しているように思えてなりません。

## 地域には「時間に追われない国」の価値観が必要

平均寿命がそれほど長くなかった時代、定年後も「時間に追われる国」の価値観のまま生活していても、それほど問題はありませんでした。

しかし今や、定年後に過ごす時間は、現役で働く時間と同じ長さ（それぞれ約10万時間）だと言われています。地域やボランティアの場、趣味の場などは、「時間に追われない国」ですから、特に定年後の方は、意識して頭を切り替えることが必要です。

私たちの生活は、何をもって完成でしょうか？ 学校を卒業して就職したら完成でしょうか。定年まで勤めたら完成でしょうか。それで終わりではないはずですが。私たちの生活は、常に未完成です。地域も同じです。

市町村の公務員の仕事は、そうした完成のない暮らしの場を対象にしたものが多くあります。市職員には、市民のみなさんと一緒に話し合ったり、一緒に何かをしたりするときには、このことを忘れないでほしいと思います

私が20代半ばの頃、愛知県から「杵ヶ池の付近に（今の）陶磁博物館を誘致しないか？」という提案がありました。当時は、区画整理が始まったばかりの頃だったので、その申し出を受ければ、保留地も売れ、いいことづくめのように私には思えました。

当時、私は、この話を受けるか、受けないかを決める話し合いの場に出席していました。座敷で火鉢を囲みながらの会議です。理事長が「さて、どうしようか」と切り出しても、誰も何も発言しません。しばらくすると、隣同士で「お前さん、お伊勢参りにいったらいいな」など関係のない話が始まります。会社勤めをしていた私は、「この人たちは、会議のやり方を知らないんだろうか」と毎回、イライラしていたものです。

そんな会議が、半年くらい続いたある日、地域の長老が、「まだ、早いんじゃないのかしらん」と発言しました。するとみんなが、「そうじゃな」「そうじゃな」と言って、申し出を断ることに決まったのです。

今思えば、会議では何も発言しなかった人たちも、地域に帰ったときに「どうす

るか」を話題にして、地域の人で意見の一致を図っていたのでしょう。時間をかけて話し合いの場を持ったからこそ、長老の「まだ、早いんじゃないかしらん」の一言で、みんなが納得して決めることが出来たのだと思います。

人の数ほど答えがある「時間に追われない国」だからこそ、自由に意見が言え、居場所が生まれると私は思っています。

～市長の話を聞いて～

私はこれまで、「時間に追われる国」の価値観しか持っていない生活をしていました。市長の話を聞くようになってから、その価値観で人を苦しめていないだろうかと考えることが多くなりました。

仕事の間では、もちろん効率や成果が求められるし、それに応えていくべきだと思います。しかし、暮らしの間である家庭や地域においては、「時間に追われない国」の価値観で過ごすことで、自分も楽になり、家族やご近所さんに対しても優しく接することができてきているような気がします。